

内部質保証に関する自己点検・評価報告書
(令和5年度)

令和7年3月
国立大学法人一橋大学
企画・評価室

目次

I. 自己点検・評価の概要	1
1. 目的	1
2. 評価実施の考え方	1
3. 実施範囲	1
4. 自己点検・評価の方法	1
5. 根拠規定	1
6. 自己点検・評価の実施状況	1
II. 自己点検・評価結果	2
1. 学部入学者選抜に関する自己点検・評価	2
2. 大学院入学者選抜に関する自己点検・評価	14
3. 学生支援に関する自己点検・評価	16
4. 施設及び設備に関する自己点検・評価	26
5. ICT 環境に関する自己点検・評価	28
6. 附属図書館に関する自己点検・評価	31

I 自己点検・評価の概要

1. 目的

学校教育法第109条第1項の定めにより、教育研究水準の向上に資するため教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することとなっている。

また、本学の使命である「日本及び世界の自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手を育成すること」を達成するため、「一橋大学における内部質保証に関する基本方針」を定め、自己点検・評価を実施している。

2. 評価実施の考え方

担当別責任者（担当副学長）が自己点検・評価を実施後、速やかに統括責任者（学長）に報告し、必要に応じて改善策の検討・対応を講じることで迅速な状況把握と改善につなげる。

3. 実施範囲

入学者選抜（学部・大学院）、学生支援、施設・設備、ICT環境、附属図書館

4. 自己点検・評価の方法

担当別責任者が所掌する委員会等において下記「5. 根拠規程」に基づき自己点検・評価を実施し、その結果を企画・評価室を通じて統括責任者（学長）に報告する。また、当年度実施した自己点検・評価結果を報告書として本学ウェブサイトに公表する。

5. 根拠規程

・一橋大学における内部質保証に関する基本方針

<参考：根拠規定掲載 URL>

<https://www.hit-u.ac.jp/guide/information/assessment/self-assessment/pdf/naibushitsuhosyo.pdf>

6. 自己点検・評価の実施状況

根拠規定に基づき、自己点検・評価が実施されていること及び自己点検・評価の結果により優れた点及び改善すべき点、また必要な改善策の検討・実施が進められていることを確認した。

II. 自己点検・評価結果

1. 令和6年度学部入学者選抜に関する自己点検・評価報告書

令和6年6月5日 教育委員会

1 入学者受入方針に即した入学者選抜の実施方法

令和6年度入学者選抜は、各学部が定める入学者受入方針に即して、以下の種別・実施方法のとおり実施した。

種別		実施方法
一般選抜	前期日程 後期日程	<p>1 入学者選抜方法 大学入学共通テスト・第2次試験の成績及び調査書等の内容を総合して行う。</p> <p>【2段階選抜】 入学志願者が募集人員を大幅に上回り、第2次試験を適切に実施することが困難な場合には、第1段階の選抜を行い、その合格者について第2段階の選抜として個別学力検査等(第2次試験)を課す。</p> <p>※ 第1段階選抜 本学が指定する令和6(2024)年度大学入学共通テストの教科・科目の得点を合計したもの(素点。ただし、得点調整が実施された場合は調整後の得点とし、英語はリーディング・リスニングの素点を合計した200点満点。)を入学志願者の成績とし、学部別に高得点順に一定数(【前期日程】募集人員の約3倍、【後期日程】募集人員の約6倍)を合格者とする。</p> <p>2 試験教科 (1) 大学入学共通テスト ○ 全学部 ・国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語</p> <p>(2) 第2次試験 前期日程 ○ 商学部・経済学部・法学部・社会学部 ・国語、数学、外国語(英語)、地理歴史 ○ ソーシャル・データサイエンス学部 ・国語、数学、外国語(英語)、総合問題</p> <p>後期日程 ○ 経済学部・ソーシャル・データサイエンス学部 ・数学、外国語(英語)</p> <p>3 配点 ※ 別紙参照</p>

種別		実施方法
特別選抜	学校推薦型選抜	<p>1 入学者選抜方法</p> <p>(1) 第1段階選抜 各学部が一般選抜前期日程試験に関して指定する令和6(2024)年度大学入学共通テストの教科・科目の得点(素点。ただし、得点調整が実施された場合は調整後の得点とし、英語はリーディング・リスニングの素点を合計した200点満点。)を合計した成績が各学部一般選抜前期日程試験出願者の第1段階選抜における順位(商学部:上位258位、経済学部:上位258位、法学部:159位、社会学部:220位、SDS学部:60位)相当の得点以上であった者を合格者とする。</p> <p>(2) 第2次試験 第1段階選抜合格者に対して行い、推薦書、調査書などの提出書類並びに小論文、面接試験及び大学入学共通テストの成績により受験者の能力、学習意欲、適性等を総合的に判定する。</p> <p>2 試験教科</p> <p>(1) 大学入学共通テスト ○ 全学部 ・国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語</p> <p>(2) 第2次試験 ○ 全学部 ・小論文、面接</p> <p>3 配点 ※ 別紙参照</p>

種別		実施方法
特別選抜	外国学校出身者 選抜	<p>1 入学者選抜方法 大学入学共通テストを免除し、第1次選抜と第2次選抜に分けて実施。</p> <p>(1) 第1次選抜 学力試験及び出願書類により行う。</p> <p>(2) 第2次選抜 第1次選抜合格者に対する面接及び上記(1)の学力試験等の成績を総合して行う。</p> <p>2 試験教科等</p> <p>(1) 第1次選抜 (学力試験) 外国語、小論文</p> <p>(2) 第2次選抜 面接</p> <p>3 配点 ※ 別紙参照</p>
	私費外国人留学生 選抜	<p>1 入学者選抜方法 学力試験の成績及び提出書類により総合的に判断して行う。</p> <p>2 試験教科等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本留学試験 (日本語、総合科目、数学 (コース1)) ○ 英語 (TOEFL (iBT)) ○ 学力試験 (日本語) <p>3 配点 ※ 別紙参照</p>

2 入学者選抜の実施状況

令和6年度入学者選抜は、以下に示す日程のとおり実施した。

(1) 一般選抜

○ 前期日程

- ・ 大学入学共通テスト（令和6年1月13日（土）、14日（日））
- ・ 第2次試験（ " 2月25日（日）：国語、数学
2月26日（月）：外国語（英語）、
地理歴史、総合問題）

○ 後期日程

- ・ 大学入学共通テスト（ " 1月13日（土）、14日（日））
- ・ 第2次試験（ " 3月12日（火）：数学、外国語（英語））

(2) 学校推薦型選抜

- ・ 大学入学共通テスト（ " 1月13日（土）、14日（日））
- ・ 第2次試験（ " 2月8日（木）：小論文、面接）

(3) 外国学校出身者選抜

- ・ 第1次選抜（ " 2月26日（月）：外国語（英語）、小論文）
- ・ 第2次選抜（ " 3月4日（月）：面接）

(4) 私費外国人留学生選抜

- ・ 学力試験（ " 1月29日（月）：日本語）

3 志願者の状況

教育委員会委員長は、入学者選抜実施専門委員会、教育委員会、役員懇談会及び部局長会議において、次の①の資料に基づき報告し、志願者数が順調に推移していることを確認した。

- ①「令和6年度学部入学者数詳細」

4 実入学者の状況

教育委員会委員長は、役員懇談会、部局長会議、教育研究評議会及び役員会において、各学部長は、教授会において、次の①②の資料に基づき報告し、実入学者数が「入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る」状況になっていないことを確認した。

また、教育委員会委員長は、教育委員会において、次の①②③の資料に基づき報告し、各学部の入学者選抜の検討を依頼した。

- ①「令和6年度学部入学者数詳細」
- ②「令和6年度学部入学者選抜実施結果」
- ③「令和6年度学部入学者選抜一般選抜実施結果詳細」

5 上記のほか、必要と認められる事項

各学部及び入試課は、「自己点検・評価シート」に基づき自己評価を実施し、その結果を教育委員会に報告した。

6 関係者等からの意見聴取

教育委員会委員長は、役員懇談会、教育委員会、部局長会議において、次の④の資料に基づき報告し、今後の入学者選抜等を検討する際の参考資料として提供した。

- ④「第11回（2023年度）テレメール全国一斉進学調査 基本調査報告書」

7 点検・評価結果（総括）

教育委員会は、1から6までにあるとおり、令和6年度入学者選抜が概ね適切に実施されていることを確認した。

【参考1】入学定員・募集人員等

学部	学科	入学定員	募集人員		
			前期日程 (注1)	後期日程	学校推薦型 選抜
商学部	経営学科 商学科	258人	243人	—	15人
経済学部	経済学科	258人	185人	58人	15人
法学部	法律学科	159人	149人	—	10人
社会学部	社会学科	220人	210人	—	10人
ソーシャル・データ サイエンス学部	ソーシャル・データ サイエンス学科	60人	30人	25人	5人
総計		955人	817人	83人	55人

(注1) 募集人員には、各学部（ソーシャル・データサイエンス学部を除く。）とも外国学校出身者選抜（5人以内）を含む。

【参考2】出題教科・科目等、配点

(1) 一般選抜

① 前期日程

教科	科目等	備考
国語	国語総合	
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A(全範囲)、数学B(数列、ベクトル)	
外国語 (英語)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ)	聞き取り・書き取り試験を行う。
地理歴史	世界史B、日本史B、地理Bのうちから試験場において1科目を選択します。	商、経済、法、社会学部のみ
総合問題	総合問題(注1)	ソーシャル・データサイエンス学部のみ

(注1)「総合問題」は、社会において数理的なものの考え方を応用する力、情報技術の活用について自ら試行する姿勢を確認するための科目。

区分		国語	地理歴史	数学 (注1)	理科 (注2・3)	外国語 (注5)	総合 問題	計	総点
			公民(注3)						
商学部	大学入学 共通テスト	50	50	50	50	50	-	250	1,000
	第2次試験	125	125	250		250	-	750	
経済学部	大学入学 共通テスト	40	40	40	50	40	-	210	1,000
	第2次試験	110	160	260		260	-	790	
法学部	大学入学 共通テスト	50	70	50	50	50	-	270	1,000
	第2次試験	110	160	180		280	-	730	
社会学部	大学入学 共通テスト	20	20	20	100	20	-	180	1,000
	第2次試験	180	230	130		280	-	820	
ソーシャル・デ ータサイエンス 学部	大学入学 共通テスト (注4)	40	80 又は 40	40	40 又は 80	40	-	240	1,000
	第2次試験	100	-	330		230	100	760	

(注1) 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を解答できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程修了（見込み）者に限る。

(注2) 【商学部・経済学部・法学部・社会学部】

大学入学共通テストの理科については、理科①から2科目を選択するか、理科②から1科目を選択する。理科①の2科目と理科②の1科目を受験した場合は、点数の高い方を用いて選抜を行う。理科②を2科目受験している場合は、第1解答科目（前半に受験した科目）の成績を用いる。

(注3) 【ソーシャル・データサイエンス学部】

地理歴史・公民から最大2科目及び理科②から最大2科目で合計3科目を課す。ただし、地理歴史・公民から2科目を選択した場合には、理科②から1科目に代えて理科①から2科目を選択することを認める。

地理歴史・公民から2科目、理科①から2科目、理科②から1科目受験した場合は、合計点が最大となる組合せを用いて選抜を行う。地理歴史・公民から2科目、理科②から2科目受験した場合は、合計点が最大となる組合せを用いて選抜を行う。

【参考】 ソーシャル・データサイエンス学部における地理歴史・公民及び理科の選択パターンは以下の3種類となる。

(ア) 地理歴史・公民から1科目＋理科②から2科目

(イ) 地理歴史・公民から2科目＋理科②から1科目

(ウ) 地理歴史・公民から2科目＋理科①から2科目

(注4) ソーシャル・データサイエンス学部における大学入学共通テストの配点は、地理歴史・公民から2科目用いる場合（注3の(イ)(ウ)）は上段の配点、地理歴史・公民から1科目用いる場合（注3の(ア)）は下段の配点となる。

(注5) 外国語は第2次試験では「英語」に読み替える。

② 後期日程

教科	科目	備考
外国語 (英語)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ)	聞き取り・書き取り試験は行わない。
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ 数学A(全範囲)、数学B(数列、ベクトル)	数学Ⅲを学習していない受験者が不利にならないように、選択問題を用いる等の十分な配慮を行う。

区分		国語	地理歴史	数学 (注2)	理科 (注3)	外国語 (注4)	計	総点
			公民(注1)					
経済学部	大学入学 共通テスト	40	40	40	40	40	200	1,000
	第2次試験			400		400	800	
ソーシャル・デー タサイエンス学部	大学入学 共通テスト	40	40	40	40	40	200	1,000
	第2次試験			500		300	800	

(注1) 大学入学共通テストで地理歴史・公民を2科目受験している場合は、第1解答科目(前半に受験した科目)の成績を用いる。

(注2) 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を解答できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程修了(見込み)者に限る。

(注3) 大学入学共通テストの理科については、「基礎を付した科目」(理科グループ①)の2科目と「基礎を付していない科目」(理科グループ②)の1科目を受験した場合は、点数の高い方を用いて選抜を行う。「基礎を付していない科目」を2科目受験している場合は、第1解答科目(前半に受験した科目)の成績を用いる。

(注4) 外国語は第2次試験では「英語」に読み替える。

(2) 学校推薦型選抜

教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	推薦書 調査書	自己 推薦書	合計
大学入学 共通テスト	50	50		50	50	50					250
第2次試験							300	150	40	10	500

学校推薦型選抜に係る令和6(2024)年度大学入学共通テストの利用教科・科目名						
			第1欄		第2欄	
教科	グループ	出願科目	受験科目数		受験科目数	
国語		「国語」	◎	1	◎	1
地理歴史		「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	○ ○ ○	2	○ ○ ○	1
公民		「倫理、政治・経済」	○		○	
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」	◎	1	◎	1
	②	「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	○ ○ ○	1	○ ○ ○	1
※ ただし、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を解答できる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者に限ります。						
理科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	○ ○ ○ ○	} から 2 又は	/	
	②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	○ ○ ○ ○			
外国語		「英語」(リスニングを含みます) 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	○ ○ ○ ○ ○	1	○ ○ ○ ○ ○	1

※1 ◎印は入学志願者全員が受験しなければならない科目を示し、○印は出願教科・科目区分欄ごとに受験科目数欄の数だけ科目を選んで、受験しなければならないことを示す。

※2 第1欄と第2欄について

【商学部・経済学部・法学部・社会学部】

第1欄は、本学部が一般選抜前期日程試験において指定する教科・科目と一致している。第1欄の要件を満たさない入学志願者についてのみ、第2欄を適用する。したがって、「地理歴史・公民」の中から2科目を受験した者は、理科グループ②（「基礎を付していない科目」）を2科目受験しても、第1欄が適用される。

第1欄適用者が理科グループ②を2科目受験したときは、第1解答科目（前半に受験した科目）の成績を用いる。第1欄適用者が理科グループ①（「基礎を付した科目」）の2科目と理科グループ②の1科目を受験した場合は、得点の高い方の成績を用いる。

【ソーシャル・データサイエンス学部】

第1欄及び第2欄の両方の要件を満たす入学志願者については、得点の高い方の成績を用いる。

第1欄適用の場合の得点は、理科グループ②を2科目受験したときは、得点の高い方の成績を用いる。理科グループ①（「基礎を付した科目」）の2科目と理科グループ②の1科目を受験した場合は、得点の高い方の成績を用いる。

第2欄適用の場合の得点は、「地理歴史・公民」を2科目受験したときは、得点の高い方の成績を用いる。

※3 英語の得点は、リーディング・リスニングの素点を合計した200点満点とする。

※4 本学がこの表の第1欄又は第2欄で指定する令和5年度大学入学共通テストの教科・科目の全てを受験していない者は無資格者として扱い、第2次試験の受験は認めない。

(3) 外国学校出身者選抜

	教科	科目	備考
第1次選抜	外国語 (英語)	英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）	聞き取り・書き取り試験を行う。
	小論文	社会・文化に関する論文又は資料等を示して理解力・判断力・表現力などをみる。	
第2次選抜	面接		

	外国語	小論文	面接	計
第1次選抜	100	100	/	200
第2次試験	100	100	100	300

(4) 私費外国人留学生選抜

区分	科目	満点	本学配点
日本留学試験	日本語	400	300
	総合科目	200	400
	数学（コース1）	200	300
	小計	800	1,000
英語	TOEFL (iBT)	120	420
本学学力試験	日本語	580	580
合計			2,000

2. 令和6年度大学院入学者選抜に関する自己点検・評価報告書

令和6年6月5日 教育委員会

1 入学者受入方針に即した入学者選抜の実施方法

令和6年度大学院入学者選抜は、各研究科が定める入学者受入方針に即して、募集要項等に基づいて実施している。

2 入学者選抜の実施状況

令和6年度大学院入学者選抜は、各研究科が募集要項等で定める実施日程のとおり実施した。

3 志願者の状況

教育委員会委員長は、部局長会議、教育研究評議会において、次の①の資料に基づき報告し、志願者・合格者数等を確認している。

①令和6(2024)年度(令和5(2023)年度実施)大学院入学者選抜の状況

4 実入学者の状況

教育委員会委員長は、部局長会議、教育研究評議会、経営協議会、役員会において、また、各研究科長を通じて教授会において、次の①の資料に基づき報告した。

①令和6(2024)年度大学院入学者数について

5 上記のほか、必要と認められる事項

各研究科は、「自己点検・評価シート」に基づき自己評価を実施し、その結果を教育委員会に報告した。

6 関係者等からの意見聴取

教育委員会委員長は、経営協議会において学外委員の意見聴取を行ったほか、部局長会議、教育研究評議会、役員会において、また、各研究科長を通じて教授会において、意見聴取を行った。

7 点検・評価結果(総括)／改善すべき点等

教育委員会は、1から6までにあるとおり、令和6年度大学院入学者選抜が概ね適切に実施されていることを確認した。また、入学定員を下回っている一部の研究科・課程・専攻については、その適正化を図る取組が実施されていることを確認した。

3. 令和5年度学生支援に関する自己点検・評価報告書

令和6年7月17日 学生委員会

I. 趣旨

本報告書は、【一橋大学における学生支援に関する自己点検・評価実施要項】に基づき、学生委員会において実施した、学生支援全般の状況に関する自己点検・評価結果を報告するものである。

II. 令和5年度自己点検・評価項目

令和5年度の学生支援全般の状況に関する自己点検・評価については、国際教育交流センター、学生支援センター及び保健センターと連携し、学生委員会において以下の項目について実施した。

- ① 学生の経済に関する支援の状況
- ② 学生の健康に関する支援の状況
- ③ 学生の就職等進路に関する支援の状況
- ④ 学生相談に関する支援の状況
- ⑤ 障害のある学生に関する支援の状況
- ⑥ 学生寮の管理運営の状況
- ⑦ その他必要と認められる事項

①【学生の経済に関する支援の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度前期入学科免除・徴収 猶予実施状況 ・令和5年度前期授業料免除・徴収 猶予実施状況 <p>／実施回</p> <p>令和5年度第6回学生委員会 (令和5年9月20日開催)</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度後期入学科免除・徴収 猶予実施状況 ・令和5年度後期授業料免除・徴収 猶予実施状況 <p>／実施回</p> <p>令和5年度第11回学生委員会 (令和6年1月24日開催)</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度一橋大学基金学生支援 給付金 支給状況 <p>／実施回</p> <p>令和5年度第7回学生委員会 (令和5年10月18日開催)</p>	<p>自己点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施していることを確認した。 <p>／確認点・改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料免除の申請において、これまで新型コロナウイルス感染症事由の免除を実施してきたが、同感染症が発生から4年余りが経過し、令和5年5月には「5類感染症」へ移行したことから、同感染症事由の免除廃止について検討を行うことを確認した。

②【学生の健康に関する支援の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度定期健康診断受診状況 <p>／実施回</p> <p>令和5年度第8回学生委員会 (令和5年11月10日開催)</p>	<p>自己点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施していることを確認した。 <p>／確認点・改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に受診率は前年度を上回る結果となり、特に学部生については、全学年とも上昇していることを確認した。 ・引き続き、健康診断書類の郵送に加え、ホームページ・CELS等による周知を徹底し、更なる受診率向上を図ることを確認した。

③【学生の就職等進路に関する支援の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度(令和5年度)学部卒業生・大学院修士課程修了生の進路状況 <p>／実施回</p> <p>令和6年度第3回学生委員会 (令和6年6月19日開催)</p>	<p>自己点検・評価</p> <p>適切に実施していることを確認した。</p> <p>／確認点・改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部卒業生については前年度同様に高い就職率を維持しつつ、大学院進学者は、修士課程修了生については博士後期課程等への進学者が増加する一方で、前年度に比べて就職率が減少したこと等を確認した。 ・キャリア支援室として、博士後期課程学生への支援の強化等を引き続き検討することを確認した。

④【学生相談に関する支援の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学生相談室活動状況(利用者数、活動実績等) <p>／実施回</p> <p>令和6年度第2回学生委員会 (令和6年5月22日開催)</p>	<p>自己点検・評価</p> <p>適切に実施していることを確認した。</p> <p>／確認点・改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の利用者の増減(全体として微減)の要因について以下のとおり検証を行った。 (増加要因) 対面授業、対人接触機会の増加 (減少要因) コロナ終息により来室前に学生コミュニティ内で解決できる事項が増加

⑤【障害のある学生に関する支援の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度障害学生支援状況(支援・相談件数、合理的配慮提供者数等) <p>／実施回</p> <p>令和6年度第1回学生委員会 (令和6年4月17日開催)</p>	<p>自己点検・評価</p> <p>適切に実施していることを確認した。</p> <p>／確認点・改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業支援学生数は前年度と同数であるが、スケジュール管理等、授業以外の支援のニーズが高く、両者を含めた相談件数は昨年度の1.4倍となっている。このため、コーディネータ3名体制を維持することの必要性、およびコーディネータ数に対して面談室が不足していることを確認した。

⑥【学生寮の管理運営の状況】について

実施内容/実施回	自己点検・評価/確認点・改善点等
実施内容 ・2023年度の国際学生宿舎の入居状況 /実施回 ・令和5年度第2回学生委員会（令和5年5月24日開催） ・令和5年度第7回学生委員会（令和5年10月18日開催）	自己点検・評価 適切に実施していることを確認した。 /確認点・改善点等 ・コロナ禍での入居率低迷が改善し、2022年度以降、入居率がある程度安定してきたものと考えられる。ただ、将来的に交流学生の受入増加等によって定員超過の生じる可能性は引き続きあるため、入居率の推移等を注視しつつ、対応策を検討していくことを確認した。 ・単身室、夫婦室についてはコロナ禍以前の状況を超える稼働率となった一方で、家族室については稼働率が低迷していることについて、運用方法等の見直し（単身室への改修）も含め引き続き対策を検討することを確認した。

⑦【その他必要と認められる事項】について

学生支援のあり方への検討及び学生への意見聴取を目的として実施している「学生生活実態調査」については隔年で実施しており、令和5年度に実施した。

Ⅲ. 関係者等からの意見聴取

学生委員会は、Ⅱに定める項目①～⑦について自己点検・評価を行った。また、学生支援に関する実施内容への意見聴取を、必要に応じて役員懇談会及び部局長会議においても実施し、自己点検・評価への活用を行った。

Ⅳ. 点検・評価結果（総括）

学生委員会は、ⅡからⅢまでにあるとおり、令和5年度学生支援全般に係る対応が適切に実施されていることを確認した。

【参考データ1】

2023年度【前期】授業料免除結果

		学部	修士	専門職	法科大学院	博士	計
全額免除	日本人学生	89名	20名	2名	23名	41名	175名
	私費留学生	4名	117名	14名	0名	76名	211名
	計	93名	137名	16名	23名	117名	386名
2/3免除	日本人学生	39名					39名
	私費留学生	-					-
	計	39名					39名
半額免除	日本人学生	1名	13名	2名	10名	14名	40名
	私費留学生	6名	44名	4名	0名	19名	73名
	計	7名	57名	6名	10名	33名	113名
1/3免除	日本人学生	23名					23名
	私費留学生	-					-
	計	23名					23名
家計急変	日本人学生	2名					2名
	私費留学生	-					-
	計	2名					2名
計		164名	194名	22名	33名	150名	563名

2023年度【後期】授業料免除結果

		学部	修士	専門職	法科大学院	博士	計
全額免除	日本人学生	94名	30名	1名	22名	47名	194名
	私費留学生	2名	122名	15名	0名	66名	205名
	計	96名	152名	16名	22名	113名	399名
2/3免除	日本人学生	40名					40名
	私費留学生	-					-
	計	40名					40名
半額免除	日本人学生	1名	13名	2名	14名	14名	44名
	私費留学生	6名	47名	8名	0名	23名	84名
	計	7名	60名	10名	14名	37名	128名
1/3免除	日本人学生	18名					18名
	私費留学生	-					-
	計	18名					18名
計		40名	212名	26名	36名	150名	585名

令和5年度一橋大学基金学生支援給付金について

給付（定員）数	60名
応募人数	56名
採用者	37名

【参考データ 2】

【学部生】2023年度定期健康診断受診者数（率）について （単位：人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
在籍者数	1,007	1,084	982	1,263	4,336
受診者数	999	897	755	725	3,376
診断書提出者数	0	0	0	1	1
※受診率	99.2%	82.7%	76.9%	57.5%	77.9%
（前年度）	98.5%	78.4%	68.0%	48.6%	72.3%
前年比	0.7%	4.3%	8.9%	8.9%	5.6%

【大学院生(国立)】2023年度定期健康診断受診者数（率）について （単位：人）

	修士課程・専門職学位課程	博士後期課程	合計	
在籍者数	1,307	552	1,859	
受診者数	759	178	937	
診断書提出者数	69	18	87	
※受診率	63.4%	35.5%	55.1%	
（前年度）		62.0%	35.7%	54.0%
前年比	1.4%	-0.2%	1.1%	

【参考データ3】

学部卒業生の進路状況について

(単位：人)

学部卒業生	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業生数	1,000	1,013	1,028	991	980
就職者	859	861	862	801	794
大学院等進学者	82	90	97	119	118
資格試験準備	15	15	23	25	23
大学院等受験準備	6	9	9	6	10
就職活動継続	9	13	15	6	11
未報告・その他	29	25	22	34	24
就職希望者 ^{※1}	883	889	900	832	828
就職率(%) ^{※2}	97.28	96.85	95.78	96.27	95.89

※1：就職希望者は、就職者に資格試験受験準備、就職活動継続者を加算し推計したものの。

※2：就職率＝就職者／就職希望者で算出。

大学院修士課程修了生の進路状況について

(単位：人)

大学院修士課程修了生 ^{※1}	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
修了者数	399	410	408	385	360
就職者	284	262	279	299	255
博士課程等進学者	62	58	57	35	51
その他(就職準備中)	33	54	41	28	29
その他(上記以外)	20	36	31	23	25
就職希望者 ^{※2}	317	316	320	327	284
就職率(%) ^{※3}	89.59	82.91	87.19	91.44	89.79

※1：国際・公共政策大学院生を含む。

※2：就職希望者は、就職者に資格試験受験準備、就職活動継続者を加算し推計したものの。

※3：就職率＝就職者／就職希望者で算出。

【参考データ 4】

令和5年度学生相談室利用者数について

(単位：人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学部生	136(17)	94(8)	125 (8)	109 (11)	106 (9)
大学院生	56(15)	44(10)	63(9)	51(16)	48(12)
その他	36 (0)	25 (0)	36 (0)	24 (1)	20 (0)
計	228	163	224	184	174

() カッコ内は留学生数

令和5年度学生相談室利用者一人当たりの平均面接回数

(単位：回)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学部生	9.9	11.3	9.9	7.6	8.7
大学院生	11.6	13.9	13.0	12.0	12.4
その他	2.4	1.8	2.1	1.0	1.4

【参考データ 5】

授業における合理的配慮提供学生数 (2019～2023年度)

(単位：人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生数	23	15	13	16	16

【参考データ 6】

国際学生宿舎の入居状況等について（2023年4月30日現在）

	一橋寮	国際交流会館 留学生宿舎	中和寮	合計
居室数 A	785 室	79 室	147 室	1,011 室
入居室数 B	664 室	68 室	114 室	846 室
稼働率 C=B/A	85%	86%	78%	84%

国際学生宿舎の入居状況等について（2023年10月10日現在）

	一橋寮	国際交流会館留学 生宿舎	中和寮	合計
居室数 A	785 室	79 室	147 室	1,011 室
入居室数 B	627 室	77 室	111 室	815 室
稼働率 C=B/A	80%	97%	76%	81%

4. 一橋大学における施設及び設備に関する自己点検・評価報告書

令和6年9月24日 施設マネジメント委員会

施設及び設備に関する自己点検・評価実施要項に基づき、下記の自己点検・評価を実施しましたので、報告します。

【令和5年度自己点検対象項目】

施設及び設備の維持管理に関すること。

1) 修繕(予防保全)の実施状況について

インフラ長寿命化計画(個別施設計画)の修繕計画により、年度当初に計画した『附属図書館』消火設備等改修工事のほか、『西本館、法人本部棟』照明設備のLED化及び『本館、磯野研究館、第1・第2講義棟、マキュリター』空調設備の更新による高効率化を図る改修工事を実施した。引き続き、計画的に修繕工事を実施することで現有施設の長寿命化を図る。また、施設課が建物点検を独自で実施し、外壁の落下危険箇所や雨漏れ跡などを事前に把握し、計画的に修繕を実施している。

2) 修繕(事後保全)の実施状況について

各部局からの依頼を受け、速やかに経済研究所西棟マイクロ資料室空調改修工事のほか225件の修繕工事を実施し、教育研究活動へ支障がないよう適切に対応した。また、大学施設については、安全で良好な環境を維持する必要があることから、施設の老朽化の状況などを把握し、修繕計画の見直しに向けた準備を進めている。

3) 法定点検指摘事項への対応状況について

各種法定点検の結果により、法令遵守や安全性の観点から緊急度の高いものから順次改善を進めている。

4) 環境負荷低減のための取組状況について

CO2排出量削減への取り組みとして、『西本館、法人本部棟』照明設備のLED化、『マキュリター』空調設備改修ほか4棟の空調機器の高効率化への改修を計画的に進め、省エネに資する取り組みを着実に実行し、環境負荷の低減を図っている。

一橋大学省エネ計画に掲げる取り組みについて、ポスター掲示、学内ポータルサイトへの光熱使用量の掲載による教職員・学生への周知及び情報発信並びに省エネパトロールによる取り組み状況の確認を行っている。

5) 学内関係者への情報発信状況について

キャンパスの果たす機能を整理し、教育研究環境の充実及び快適性の実現を目指した施設・環境整備計画を具体的に示した「キャンパスマスタープラン（2024 改定版）」を作成し、本学ホームページに情報を公開している。

また、本学は、令和3年度より、環境報告書を毎年度作成・公表してきており、令和5年度も環境報告書 2023 を作成し、本学ホームページに情報を公開している。

5. ICT 環境に関する自己点検・評価報告書

対象年度	令和 5 年度
担当別責任者	情報化統括理事・副学長
実施主体	情報基盤センター委員会
自己点検・評価実施日	令和 7 年 2 月 19 日
根拠となる要項等	一橋大学における ICT 環境に関する自己点検・評価実施要項

1. 評価項目

(1) 学内 LAN の整備状況

全学向けのネットワークインフラとして有線ネットワーク環境の整備、および教育用ネットワークとして授業教室を中心とした無線ネットワーク（1284Wireless）を整備して運用しており、学術基盤ネットワーク（SINET）接続によるインターネット接続環境を確保している。

なお、無線環境の改善のため無線アクセスポイントの再配置や LCX（漏洩同軸ケーブル）の再配線実施による物理的対策を行うとともに、利用端末数の制限やローミング制限など設定の最適化を随時実施している。併せて、利用者側へも端末側の設定等の周知を行い、適切な通信環境の確保のための協力を促している。

(2) コンピュータやシステムの整備・運用状況

全学向けの情報教育授業や演習、ならびに学生の自習の場として、情報処理・教育システムを整備している。現行システムは情報教育棟と附属図書館に分散配置され、令和 5 年度には情報教育棟側が通年 15 コマの授業で利用され、附属図書館側は月数百人のユニークユーザーによって利用された。また、令和 5 年度内に新システムの調達を行い、令和 6 年 3 月より新しい情報処理・教育システムの稼働を開始した。

(3) 教育への活用状況

全学共通教育科目として情報リテラシーやプログラミング等の授業が実施されており、学内 LAN や情報処理・教育システムが活用されている。オンライン授業に必要なオンライン会議システムとして、Zoom を 1,000 ライセンス、Webex を 50 ライセンス契約し、整備を進めている。また、情報基盤センターに問い合わせ窓口を設置し、授業やゼミ等の教育活動での活用を支援するための技術的サポートを提供している。

(4) サイバーセキュリティに関する取組み

全教職員のリテラシー向上のため、e-Learning による情報セキュリティ研修を実施しており、基本的対策の徹底を促している。また、情報セキュリティに関する各種注意事項の自己点検により、日頃の業務等での注意を改めて確認するとともに、セキュリティ意識の向上を促している。さらに標的型攻撃メール訓練により、インシデント要因の多くを占めるメール利用の日頃からの注意を促すよう訓練を実施している。なお年度末にはセキュリティに関する啓発ポスターも学内に掲示している。

その他、他大学と協力したセキュリティ向上の取組みを実施しており、電気通信大学とのセキュリティ相互監査や東京農工大学との意見交換会を実施している。

(5) その他必要と認められる事項

令和 2 年 10 月に導入した業務系情報基盤システムが、令和 7 年 9 月末に 5 年間の運用期限を迎える。このことから、後継となるシステムの導入を検討するために、情報基盤センターおよび主要な業務系システムを運用している部署の職員を中心として、検討会を設置した。この検討会を中心に昨今の技術的な動向やコスト面についての調査・検討を行い、本件調達に係る基本方針を策定するところまで進めている。

2. 関係者からの意見聴取等

- ・令和 5 年度の情報処理・教育システムのリプレイスに際して、全学アプリケーション検討委員会を開催し、本学の教育・研究活動に必要なアプリケーションの意見聴取を行った。その結果、既設のアプリケーションのバージョンアップや適切なライセンス形態での契約、フリーウェアへの差し替えに関する意見等があった。
- ・サイバーセキュリティに関する取組み（上述の情報セキュリティ研修や自己点検）について、CIO 会議等の学内会議に実施報告をし、フィードバックを受けている。その結果、研修未受講者が情報セキュリティインシデントを起こさないように早期に研修を受講する必要性や、自己点検の効率的な実施方法について意見等があった。

3. 点検・評価結果（統括）

情報基盤センター委員会は、1 から 2 までにあるとおり、自己点検・評価の結果、令和 5 年度の ICT 環境全般に係る対応が適切に実施されていることを確認した。

4. 改善が必要な点への対応状況

- ・研修未受講者の早期受講に関する意見を踏まえて、情報セキュリティ研修については、従来 6～7 月に一度のみ開催していたが、年度途中で入職する教職員も本研修を速やかに受講することができるよう、令和 6 年度からは通年で開催することとする。
- ・研修の効率的な実施という意見を踏まえて、情報セキュリティに関する各種注意事項の自己点検については、従来分散していた点検手法（HWP および Excel ファイルを用いて回答・集計）を Web アンケート形式に統一し、利便性の向上を図る。

6. 附属図書館に関する自己点検・評価報告書

対象年度	令和5年度
担当別責任者	図書館統括理事・副学長
実施主体	附属図書館委員会
自己点検・評価実施日	令和7年3月5日
根拠となる要項等	一橋大学における附属図書館に関する自己点検・評価実施要項

1. 評価項目

(1) 学術資料の整備状況

附属図書館長から大学執行部への働きかけにより、研究機構会議の下、ジャーナル高騰化問題等検討ワーキング・グループが10月に設置され、検討を重ねた。

また、ジャーナル高騰化を背景に、図書を購入する予算が年々減少する中、教育・研究に真に必要な図書をより効果的に収集する工夫を行っている。例えば、学生向けに購入する図書について、教員からの推薦をより広く受け付けられるよう「教員推薦図書費」の予算枠を設けるなどの取組みを行った。

上記のような取組みの他、全般的に適切に学術資料の整備を進めている。

<根拠資料>

- ① ジャーナル高騰化問題等検討ワーキング・グループの設置について（令和5年10月23日 研究機構会議）
- ② 令和6年度第1回附属図書館委員会（令和6年4月24日開催）資料3「令和5年度専門図書費等決算報告」
- ③ 「一橋大学附属図書館概要（令和6年度）」3.1 所蔵資料状況

(2) 附属図書館の利用状況

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、本学の活動指針レベルが「レベル1」から「レベル0」へ引き下げられることに伴い、5月8日より、それまで段階的に緩和してきた施設面でのコロナ対応利用制限（利用者が密に接触する可能性を低減するための措置）をすべて解除した。

上記のような取組みの他、全般的に図書館を適切に利用に供している。

<根拠資料>

- ① 令和5年度第1回附属図書館委員会（令和5年4月26日開催）資料12「附属図書

館における新型コロナウイルス感染症の5類への変更後の対応について」

② 「一橋大学附属図書館概要（令和6年度）」3.2 利用状況

（3）附属図書館の施設及び設備の整備状況

また、令和5年5月より、授業が行われない期間（休業期等）について、当館において独立して閉室が可能である「大閲覧室」（381席；図書館全体の座席数の半数弱）を閉室とし、節電と省エネルギーに対する取組みを行った。

上記のような取組みの他、全般的に施設・設備を適切に整備している。

<根拠資料>

- ① 令和5年度第1回附属図書館委員会（令和5年4月26日開催）資料8「令和5年度附属図書館における省エネルギー・節電対策について」

（4）その他必要と認められる事項

・図書館業務システムの整備状況

令和7年度に予定されている図書館業務システムの更改に向けて、システム更新に係る基本方針を策定し、学内会議で承認を得た。また、調達仕様書の素案を取りまとめるとともに、仕様策定委員会を設置し、意見招請に向けた体制を整えた。

<根拠資料>

- ① 令和5年度第6回附属図書館委員会（令和6年2月1日～7日開催メール審議）資料3「次期図書館業務システム仕様策定委員会の設置について」

2. 関係者からの意見聴取

特になし。

3. 点検・評価結果（統括）

附属図書館委員会は、自己点検・評価の結果、令和5年度の附属図書館に係る対応が適切に実施されていることを確認した。

<優れた点>

・電子ジャーナル転換契約の開始

本学における研究環境の充実のための施策として、研究成果のオープンアクセスを促進する「転換契約」（OA出版と電子ジャーナルの包括契約）の導入を実現した。令

和5年度においてはElsevier社及びSpringer Nature社の2社と転換契約の締結を行った。

<根拠資料>

① 「オープンアクセス支援」_一橋大学附属図書館ウェブサイト

・図書館ヘルプデスクにおける留学生ピアサポートの実施

留学生に対する図書館サービス拡充のため、本学留学生から「留学生ヘルプデスク」スタッフを2名配置した。留学生向けの図書館サービス案内や質問対応等を行う傍ら、留学生サービスにつながるガイドやショート動画の作成、館内掲示、申込書式等の英訳、英文校正等の業務を行った。

<根拠資料>

① 「留学生ヘルプデスクを開設しました」_広報誌 BELLno241 (2023/10/31 発行)

<改善が必要な点>

・学術資料購入経費の安定的な確保

4. 改善が必要な点への対応状況

令和6年9月、研究機構長から学長に対し本学における研究資料整備の在り方について答申を行うなど、大学執行部レベルを巻き込んだ議論・検討を積み重ねている。

<根拠資料>

① 研究機構長から学長への答申（令和6年9月5日）